

ひさかたの
(柿本人麻呂)

解説 天の香具山に登り春を実感した詩。

ひさかたの 天あまの 香具山かぐやま この 夕ゆうべ

語釈 ※ひさかたⅡ枕詞。天空に関係のある「天あま」「雨あめ」「空」「月」「日」「昼」「雲」「光」などに、また、「都」にかかる。語義・かかる理由未詳 ※天の香具山Ⅱ奈良県橿原市東部にある山。海拔一四八メートル。高天原たかまのはらにあった山が、地上に降ったとの伝説から、古来、神聖視され天の香具山と呼ばれる。

霞かすみ たなびく 春はる 立たつらしも

通釈 久しぶりに夕べに天の香具山にやってきた。天の香具山は霞がたなびいているので、やっと春になってきた実感がする。